



**2015 COMPOUND
OWNER'S MANUAL**

HOYT コンパウンドボウ マニュアル

※このマニュアルにはWARNING、CAUTION、NOTICEという表記が含まれています。これらの表記は、特に注意が必要な箇所です。WARNINGでは、弓の扱いにおいて特に注意をしていないと大けがを負わせてしまう、または死亡する危険な箇所を指しています。CAUTIONは、注意をしていないと怪我を負わせてしまう箇所を指しています。NOTICEは変更点など、特に怪我には繋がらない箇所のことを指しています。

WARNING：HOYTボウを使う前に、このマニュアルをよく読んでください。あなたはアーチェリーの安全管理に責任があります。このマニュアルには、印刷当時の安全情報しか記載されていません。最新の情報に関してはwww.hoyt.com/safetyandwarningsへ。

WARNING：ターゲットや矢、ブロードヘッドにリリーサーなど、HOYTボウと併用する道具に関するすべての注意書きやマニュアルをよく読んでください。

WARNING：使用前に弓のセットアップが安全に機能する範囲に収まっていることを確認してください。HOYTでは、HOYTの取扱店のみが弓のセットアップをし、安全を確認することを推奨しています。

WARNING：毎回の使用前に弓の状態をよく確認してください。弓を射つ前に弓本体と矢、アクセサリ、リリーサーが正しく機能することを確認しましょう。弓の損傷が発見されたら、購入したプロショップに確認・修理を依頼しましょう。

WARNING：HOYTでは弓を使用する前に、認可されたアーチェリーコーチによる指導を受けることを推奨しています。地元のアーチェリー協会の連絡先にコンタクトを取ってみましょう。

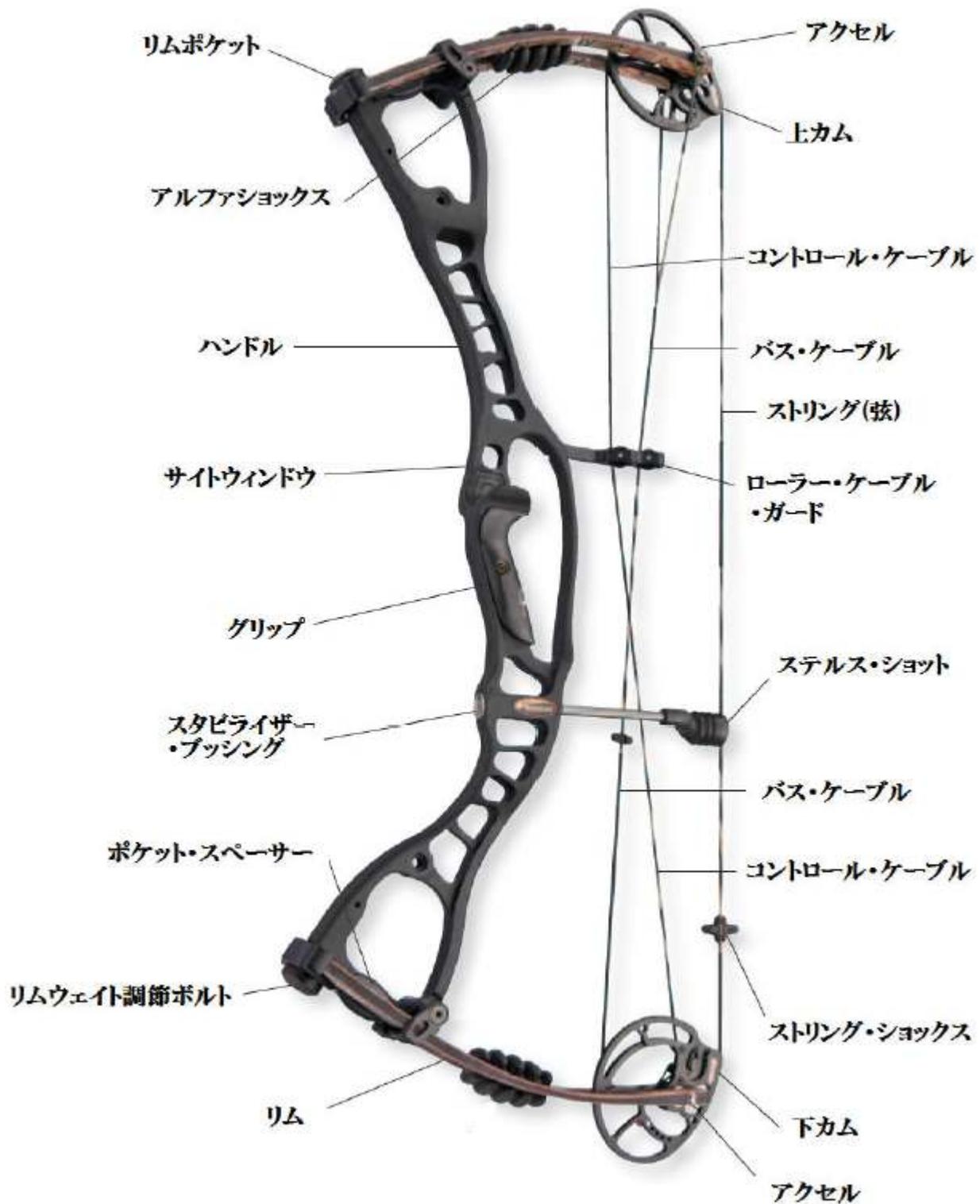
WARNING：子供が弓を射つときは、必ず大人が同伴しましょう。

WARNING：弓を射つ際にはアルコールやドラッグは服用しないでください。

WARNING：弓を扱うときは、安全ゴーグルを着用しましょう。

WARNING：弓を引いている最中、フルドロウの状態、実際に射っているときに、ハンドルを離さないでください。手が滑らないよう、しっかりとしたグリップを作ることが重要です。ローションや日焼け止め、虫除けなどを使用することによって、安全が損なわれる可能性があるため、注意しましょう。

WARNING：弓の動作を邪魔するようなパーツが周辺にないよう注意しましょう。弓を射っている最中に服のたるみやアクセサリなど、身体の周りのものが弓にからまないように注意してください。



WARNING : ターゲットの後方や近くに人や家畜、建物、道路や他のものがないことを確認してください。暗い時も何をターゲットとして狙っているか、常に分かるようにしてください。

WARNING : 空うちは矢をつがえずにストリングをドロ잉し、リリースすることです。エネルギーを吸収してくれる矢をつがえず弓をうつと、弓に激しいダメージを与えるだけでなく、シューターや周囲の人にも被害が及ぶ可能性があります。どのようなポジションからでも、弓をゆっくりと慎重に戻してください。サイズや強さが合わない弓を引かないでください。空うちによる弓のダメージは保証の対象外となります。

WARNING: リムウェイト調整ボルトを8回転以上弛めないでください。弓がバラバラになる恐れがあります。

WARNING: あらゆるチューニングは、弓を引いている最中におこなわれるべきではありません。シューティングサイクル中には絶対に弓に触れないようにしましょう。

WARNING: 適切でないスパイン、長さの矢を使用して弓を射たないでください。不適切な矢を使用することで矢が破損し、周囲に危害を加えることになる危険性があります。あなたのセットアップに対する正しい矢を選択するために、アローシャフトのセレクションチャートを利用しましょう。

WARNING: ピークウェイトの1ポンドあたり、5グレイン以下の軽い矢は射たないでください。例えば、あなたのピークウェイトが70ポンドの場合、350グレインよりも軽い矢は射たないで下さい。ピークウェイト1ポンドに対して5グレイン以下の矢を射つことは、弓に激しいダメージを与えるだけでなく、シューターや周囲の人にも被害が及ぶ可能性があります。軽すぎる矢を使ったことによる弓の故障は保証の対象外となります。

WARNING: 弓を改造しないでください。穴を空けたり、パーツを切ったり削ったりすることで、弓の破損を招き、重症を負う、または死の危険性が発生します。

WARNING: HOYTボウを工場出荷の状態から改造しないでください。出荷時とは異なるカムやリムなどに交換することで弓の破損を招き、重症を負う、または死の危険性が発生します。

WARNING: 傷んだストリング、ケーブルを使用して弓を射たないでください。傷んだストリング、ケーブルはHOYTやHOYTリテラーによって即座に交換してもらう必要があります。毎回のシューティングの前に、ストリングやケーブルの状態を必ず確認しましょう。HOYTでは2000射以上、あるいは2年以上使用したストリングやケーブルは交換することをお勧めしています。

WARNING: ストリングアクセサリー（ピープサイト、キッカーボタン、ノッキングポイント、Dループ、ストリングサイレンサー、ストリングウェイト、スピードウェイトなど）が正しく設置されていることを確認しましょう。また金属のストリングパーツは使用しないでください。

WARNING: ストリングやケーブルの破損を防ぐために、ナイフやブロードヘッドなどの鋭い刃物の近く、または高熱の場所に放置しないようお勧めします。

WARNING: サイズの合わないカムモジュール、モジュールスクリュー、セットスクリューを使用して弓を射たないでください。ドローストップペグの挿入されていない弓は引かないでください。またカムコントロールペグは絶対に外さないでください。これらの部位については、毎回レンチセットでしっかりと締め、モジュールが間違っていないか確認するようにしましょう。

WARNING: ケーブルガード、ケーブルスライド、ローラーが正しく設置されていない弓は使用しないでください。

WARNING：HOYTの純正のパーツのみを使用してください。破損したパーツの交換はプロショップがおこないます。HOYTボウに合わないボウプレスを使用することで、弓に激しいダメージを与えてしまう可能性があるからです。

WARNING：HOYTカーボンハンドルに潤滑剤をつけないよう注意してください。構造が弱くなってしまうことがあります。

WARNING：HOYTカーボンハンドルに衝撃を直接与えないでください。直接衝撃を与えてしまった場合は、販売店に確認してもらい、必要であれば修理してもらいましょう。

WARNING：快晴の日の車内など、高温の場所に弓を放置しておくとう器具の故障を招きます。暑く乾燥した屋根裏や、湿度の高い地下室などに長期間保管しておくのも痛みの原因になります。弓を使わないときは適切な場所に保管してください。極端な状況下に放置していた場合の故障は、保証の対象外となります。

WARNING：この注意書きはすべてカリフォルニア州法65条のもとに作成されています。上記の商品にはカリフォルニア州認可のもと、製造過程の中でガンや先天異常、発達障害を起こしうる化学物質が使用されています。

HOYT Bow Safe Operating Parameter

WARNING：弓の使用に際しては、セットアップや機能が安全の範囲内におさまっていることが前提です。HOYTでは、弓の安全性を確保するために、販売店のみが弓やアクセサリー類のセットアップをおこなうことを推奨しています。弓の各安全値が確保された上で、あなたのシューティングスタイルやフォーム、使用する矢やアクセサリーに基づいた正しいチューニングがおこなわれるべきです。基礎チューニングやコツについてはこのマニュアルを参照してください。

カムセッティング



写真 A

上下両方のカムは相互に合ったサイズ・種類である必要があります。多くのHOYTコンパウンドボウはドロールンクスが調整可能なタイプのカムシステムを採用しています。ドロールンクスが調整可能なモジュールシステムがある場合、モジュールを固定するためのスクリューや留め具はその箇所に適切に固定する必要があります。ドロールンクスモジュールが交換可能な場合、上下のカムにはそれぞれ合ったモジュールを使用し、ケーブルドローストップペグをモジュールに合った正しい位置に固定する必要があります（写真A）。

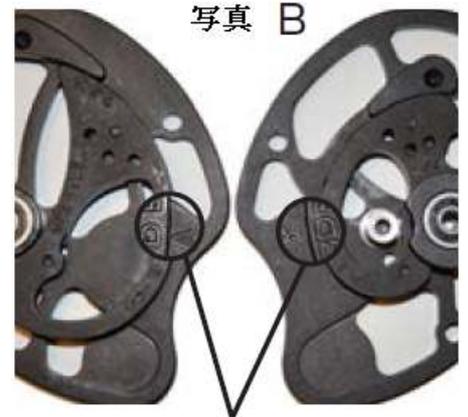


写真 B

両方ともに「D」にセットされている

ドロールンクス調整のためにモジュールを回転させる必要がある場合は、上下のカムモジュールの位置が互いに同じ位置に来よう回転させて固定しましょう（写真B）。

リムウェイト調整ボルトのセッティング



写真 C

すべてのHOYTコンパウンドボウは、ピークウェイトを調整可能なリムシステムを採用しています。弓のピークウェイトを調整したい場合は、上下両方のリムボルトを同じ数だけ回転させることによって、調整することができます（写真C）。またリムウェイト調整ボルトを8回転以上弛めてしまうと、弓が分解してしまう危険性があります。また上下のリムボルトの位置が、どちらも同じ位置にあるように注意してください。

リムウェイト調整ボルト

弓の付属アクセサリー

HOYTボウには様々なマウントがあり、サイトやクイバー、アローレストやスタビライザーなどを弓に取り付けられるようになっていています。アクセサリーを弓に取り付けるときは、アクセサリーのメーカーによって提供されるマニュアルをよく読んでおいてください。すべてのアクセサリーが、左右の関係なく、しっかりと固定されているようにしてください。またすべてのアクセサリー類が、弓を射った際に、ストリングや矢の通過する箇所がないように注意してください。

アローレストのセッティング



アローレストはメーカーによってデザインやスタイルが異なります。弓のタイプに合わせて、左右が適切なものになるように注意してください。HOYTボウの使用に際して、すべてのアローレストが、矢を射ったときにフレッチングがクリアするようにしてください。またアローレストが安全に機能するための目安として、レストのマウンティングロケーションにおける矢の中心が、ハンドルから5/8インチ~1インチの箇所にあるようにしてください（写真D）。レストを正しく機能させるために、アローメーカーのマニュアルをよく読んでおいてください。

Dループとノッキングポイント



すべての弓において、レストと併せて矢を正しくストリング上に固定するためには、Dループやノッキングポイントが必要になります。HOYTボウでは、矢をレストに乗せた状態で、ストリングに対して直角な位置から上下に3/16"の範囲が適切なDループ・ノッキングポイントの位置になります（写真E）。

このとき、プラスや金属クランプ式のノッキングポイントは使用しないでください。「結びつける」タイプのノッキングポイントを作るときは、必ず高品質なアーチェリー用サービング素材を使用してください（「結びつける」タイプのノッキングポイントの例は写真F参照）。またDループについても、同じくアーチェリー用の高品質Dループ素材を使用してください（Dループについても写真F参照）。どちらの場合も、しっかりとストリングに固定され、シューティング中に落ちないようにすることが重要です。



その他のストリングアクセサリー

ピープサイトやストリングサイレンサー、キッカーボタンなど、ストリングやケーブルに設置されるアクセサリーを使用する際は、シューティング中に外れてしまわないようにすることが重要です。HOYTでは、販売店がこれらのアクセサリーを設置する作業をおこなうことをお勧めします。

アクセサリーの選択

HOYT と FUSE は幅広いアーチェリー用の商品やアクセサリーを製造しています。正規の販売店があなたのシューティングスタイルに合った道具の選択やチューニングをお助けします。弓のためではないものを弓に取り付けようとしないでください。

ドローレングス

ドローレングスは様々な要素によって定義されます。HOYT の取扱店では、スタッフがあなたの体やシューティングスタイルに合わせたチューニングをするよう訓練されています。HOYTではシューターに合わせて2種類の基本的なカムを取り揃えています。Rotating inner-cam module カムと Exchangeable module カムの2つです。ドローレングスは(Archery Trade Association)規格に合わせて、インチで測ります。ノックの内溝からレストマウンティングホールまでの距離+1と3/4 インチを測ります。ドローレングスを調節する方法は後述します。

ドローウェイト

ウェイト調整は、リムウェイト調節ボルトを時計回りに回せばポンドが上がり、反時計回りに回せばポンドが下がるという風に簡単に行うことができます。ティラーが同じになるように、上と下のリムボルトは同じ位置にしてください。HOYT の弓はピークウェイトよりも 10ポンド分下げることが可能です。たとえば、60 ポンドの弓は、最低で 50ポンドまで下げることができます。リムボルトは 8 回転以上緩めないようにしてください (Igniteシリーズでは10回転まで)。弛めすぎてしまうと調整中やシューティング中にリムが外れてしまい、怪我をする危険性があります。弓のピークウェイトは、表示ポンドよりも最大4ポンドまで重くすることができます。

Note：ウェイト調整にダウエルスクリューを弛める必要はありません。また保管のためにポンドを下げる必要はありません。

センターショット調整

センターショットは弦のラインと矢のアラインメントを合わせることを表します。レストマウンティングホールから、アローシャフトの中心までの距離はおおよそ 1と 5/8" インチにする必要があります。これはアローレストを左右に動かすことで調整できます。これはまだ最初の段階のチューニングなので、さらに詳細な調整が必要になってくるかもしれません。

ノッキングポイントの位置

あなたの弓のセットアップとシューティングスタイル(矢の種類、フィンガー/ リリースャーか、アローレストの種類など)がノッキングポイントの位置を決定します。最初は、矢と弦が直角を作るようにノッキングポイントを作ります。これはまだ最



初の段階です。さらに精密な調節がノッキングポイントには必要になってきます。HOYT はプラスチックや金属ノックをノッキングポイントに使うことを推奨していません。またストリングコンポーネントの設置は、認可されたアーチェリープロショップがおこなう必要があります。

ファインチューニング

HOYT の正規代理店はあなたに弓を精密にチューニングするにはとても役立ちます。全体のセットアップに関する効果的な方法があります。正規代理店では、最初から最後まで、すべてのチューニングを行うことができます。

弓のメンテナンス

あなたの弓は機械なので摩耗します。そのために定期的に検査をし、チューニングする必要があります。HOYT は、最低でも年に一度、弓をプロショップに持って行って、プロフェッショナルにメンテナンスを行ってもらうことを推奨します。確認が必要な箇所は主にアクセルやスパーサー、Eクリップにストリング、ケーブル、リム、カム、ポケット、ハンドルです。

ストリングとケーブル

弓のストリングとケーブルには定期的に、ボウストリングワックスをつけるようにしてください。2週間に一回くらいの頻度で行うのがいいでしょう。HOYTのプロショップで買える高品質のボウストリングワックスを使うことをおすすめします。これにより、ストリングとケーブルをいい状態に保つことができます。いい結果を出すためにも、ストリングやケーブルに傷みがはっきり出ていたり、継続的に2年以上使った場合は、交換するようにしてください。またHOYTボウにはFUSEのストリングとケーブルが使用されています。すべてのHOYT製のモデルにはFUSEの Custom String System が装備されています。交換の際は、必ずFUSEのストリングとケーブルに交換してください。低い品質のストリングやケーブルを使うと、弓のパフォーマンスを変えてしまったり、保証の対象外の故障を招いたりしてしまう可能性があります。絶対にストリングとケーブルを高温多湿の場所に放置しないでください。ストリングアクセサリーの設置はHOYTリテラーがおこなうべき作業です。ストリングとその周辺アクセサリー(ピープサイト、キッカーボタン、ノッキングポイント、D ループ、ストリングサイレンサー等)がまだしっかりと設置されていない弓は引かないで下さい。不適切なセッティングをしてしまうと、安全なシューティングができなくなってしまいます。HOYT はプラスチックや金属ノックをノッキングポイントに使うことを推奨していません。

AIRSHOX

HOYT2015年モデルにはAirShoxが標準装備されているものもあります；Carbon Spyder ZT シリーズ、Nitrum シリーズ、 Faktor 30とEliteシリーズです。工場出荷のAirShoxは、振動吸収性能と静音性を高めるためのものです。定期的にAirShoxの状態を定期的に確認し、摩耗していたら交換しましょう。交換用のAirShoxは、HOYT代理店で購入することができます。AirShoxダンパーは保証の対象外です。AirShoxエクステンションアームを取り外すときは、必ずボウプレスを使用するか、弓を分解してからおこなうようにしてください。AirShoxを交換しないことで発生した弓の故障は、



セットスクリュー

保証の対象外です。エクステンションアームの取り外しには、まずスクリューを外すところから始めましょう。調整が完了したら弓を再度固定し、スクリューを締めすぎないようにしましょう。

Note：Factor30では、カムサイズによってAirshoxエクステンションアームのサイズが決まっています。エクステンションアームには、各カムに対応した番号があります。例えばエクステンションアームR3はZ5 3.0カムに対応しています。弓に使用されているカムに対応したエクステンションアームを使用してください。AirShoxアームをポケットに使用したとき、正しい効果を得るためには30インチポンドでねじを締めてください。

Carbon Spyder ZT シリーズとNitrum シリーズのAirShox システムは、異なる弓にそれぞれ対応するようセッティングが施こされています。エクステンションアームはダンパーがリムにわずかに接するよう、工場で位置をセッティングされています。調整が必要であれば、エクステンションアームのスクリューを弛め、ダンパーをリムの内側にわずかに接する位置に設置したら、再度固定しましょう。エクステンションアームスクリューは締めすぎないように注意してください。

リムダンパーとストリングサイレンサー

HOYTボウの中には振動や音を吸収するためのリムダンパーやストリングサイレンサーが標準装備されているものもあります。これらも定期的に状態を確認し、摩耗が確認されたら交換しましょう。これらのダンパーやサイレンサーも保証の対象外です。



ステルスショットストリングサプレッサー

ステルスショットは高性能の振動吸収システムです。最高のパフォーマンスのために、ステルスショットのダンパー部分が、ブレースハイトの位置で弦にギリギリ触れる位置に取り付けてください。注意:ブレースハイトで過剰な圧力をかけないようにしてください。ダンパーのねじを緩めることで、弦が中心にくるように調節することができます。

塗装と仕上げ

あなたの弓の塗装と仕上げにはメンテナンスをおこなう必要性がありません。泥やほこりなどは濡れた布で拭き取ってください。湿った状態で使った後は、水によるダメージを防ぐために乾いたタオルなどで拭いてください（熱源を使って弓を乾かさないように！）。ターゲットモデルの光沢仕上げのものは、高品質の自動車用ワックスを使用できます。化学物質や溶液、その他の弓の塗装を害するものは使わないでください。化学物質や溶液、それ以外で、弓の塗装・仕上げにダメージがあっても、保証の対象外です。塗装で保証されるのは製造段階で欠陥があったときのみです。

カムの注油

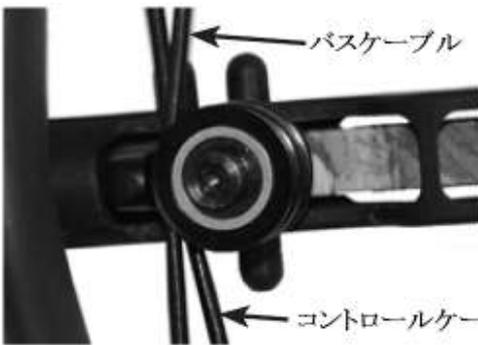
カム&1/2パフォーマンスシステムを装備した弓は、注油を必要としないシールドボールベアリングを採用しています。Igniteカム、Ruckusカム、AccuWheelなどの従来のベアリングやブッシングには、カムの中の軸に定期的に注油することが必要です(1,500~2,000 射ごと)。土やほこりや湿気のあるハンティングコンディションの中では、毎日注油することが必要です。余分な潤滑油はほこりや汚れを集めてしまい、塗装面を傷めてしまうので、拭き取るようにしてください。HOYT のプロショップで買えるシリコンやテフロンをベースとした潤滑油や、グリスを使用することをおすすめします。WD-40 や EZ-#7、Fast Break などの「防錆浸透オイル」は使用してはいけません。

ボウプレスの使用

知識のある技術者がいない限り、絶対に弓をボウプレスにはかけないでください。ボウプレスを必要とする調節は HOYTプロショップで行うことをおすすめします。

NOTICE：ボウプレスの間違った使用によるダメージは保証されません。弓の調節を行う場合は、必ずリムだけを押しボウプレスを使ってください。弓をボウプレスにかける前に、(もし搭載されているのなら)ウェイトロックボルトを緩め、ウェイトアジャスタメントボルトを締めこんだ状態から 5~7 回転緩めてください。弓をボウプレスにかける時は、絶対にハンドルやカムに圧力をかけないようにしてください！

ZTケーブルガードシステム (Carbon Spyder ZTとNitrumシリーズ)



ZTケーブルガードシステムは工場ですでにセッティングされており、それ以上のセッティングは必要ありません。ローラーホイールは注油を必要としないシールドベアリングを採用しています。もしホイールにワックスや汚れが付いたら、布で軽く拭き取ってください。

Note：ZTケーブルガードからスプリットヨークバスケーブルとコントロールケーブルを取り外すときは正しいボウプレスを使用して外す必要があります。ケーブルを弛めたら、5/32"レンチを使用してローラーホイールとスペーサーを外し、ケーブルを取り出します。

パーツを再度組み立てるときは、ローラーホイールとスペーサーを正しく設置しなおさなければなりません。ベアリングの大きい面、または屈折した面が弓のシェルフの反対側を向いている必要があります。ローラーホイール同士、インナーホイールとスレッドマウントの間には.050"スペーサーを入れる必要があります。

正しく設置できたら、スプリットヨークバスケーブルが矢に最も近いホイールトラックに沿うようにセットされ、コントロールケーブルは弓のシェルフに最も近い位置にセットされます。またケーブル同士はローラーホイールの位置で交叉し、互いに触れないようにセットされます。ネジ留めと

スクリューを15インチポンドで締める前に、必ずケーブルが正しいトラックに入っているかを確認しましょう。過剰に締めてしまってもいけません。

ZTケーブルガードのフレキシブルリムアセンブリーはメンテナンス不要で、改造してはいけません。パーツの汚れを落としたり、ショックロッドを挿入するために分解する必要があるときは、ボタンヘッドスクリューを1/8"レンチで弛めます。スクリューは12インチポンドで締め直してください。過剰に締めてはいけません。

正しいボウプレスを使用せずに、ZTケーブルガードシステムを分解しようとししないでください (p20)。

ZTケーブルガードシステムが正しくセットされていない状態で弓を引かないでください。

インラインローラーケーブルガード (Faktor 30)



インラインローラーケーブルガードのある弓は、工場ですでにセッティングされており、それ以上のセッティングは必要ありません。ローラーホイールは注油を必要としないシールドベアリングを採用しています。もしホイールにワックスや汚れが付いたら、布で軽く拭き取ってください。

NOTICE：ローラーを再設置する場合、バスケーブル・コントロールケーブルを設置するときは、コントロールケーブルが「CC」と書かれたローラートラックに沿っており、バスケーブルが「BC」と書かれたローラートラックに沿っているようにします。正しくセッティングされた場合は、ケーブルが互いに接触しません。ケーブルを変えたり、交換する際にはローラーホイールを取り外す必要はありません。



ローラーのベアリングの向きを間違えないでください

ベアリング側が弓のシェルフ側を向くようにホイールとスクリューをセットします。ベアリング側がシェルフと反対を向かないようにしてください。

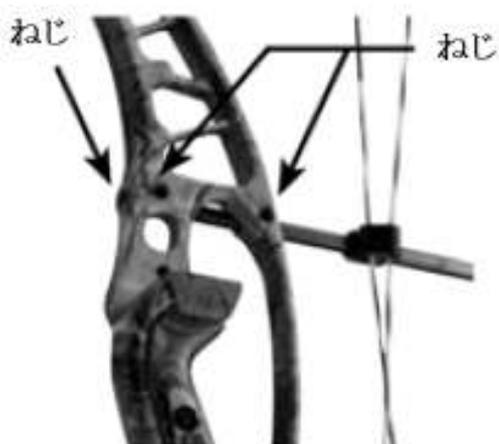
PodiumX Eliteケーブルガードシステム

PodiumX Eliteシリーズは、矢のクリアランスとチューニング性能を高めるために、アジャスタブルケーブルガードシステムが標準装備されています。ケーブルガードには4種類（0度、3度、6度、9度）のセッティングがあり、工場出荷状態では0度にセットしてあります。

ケーブルガードを調整する前に、まずはケーブルスライドからケーブルを取り外します。ソケットヘッドスクリューを9/64"レンチで1、2回転分弛め、バーを必要な角度になるまで回転させます。再度スクリューを20インチポンドまで締め直し、ケーブルスライドを設置し直します。必要なセッティングポジションに達するまで、スクリューは締めないでください。弓を引く前に、矢のすべてのパーツのクリアランスが確保されているかを確認してください。矢やフレッチングは、ドロースイクルの中で絶対にケーブルに触れてはいけません。矢やフレッチングの一部がケーブルに当たってしまう場合は、バーをより奥に締めて、角度をつけることでクリアランスをより確保できます。

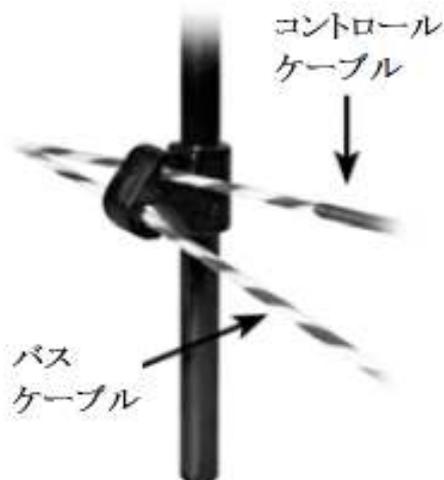
WARNING: ケーブルガード、ケーブルスライド、ローラーが正しく調整・設置されていない状態で弓を引いたり、射ったりしないでください。

ケーブルガードの設置



いくつかの HOYTの弓はケーブルガードバーが標準装備されています。ケーブルガードバーを設置するためには、バーがハンドルの穴に完全に入るように、ハンドルの二つのマウンティングホールに取り付けます。バーが入った後は、付属する1/4-20 x 1/2"セットスクリューで固定してください。再度スクリューを入れ直すときはLoctiteの使用が推奨されます。

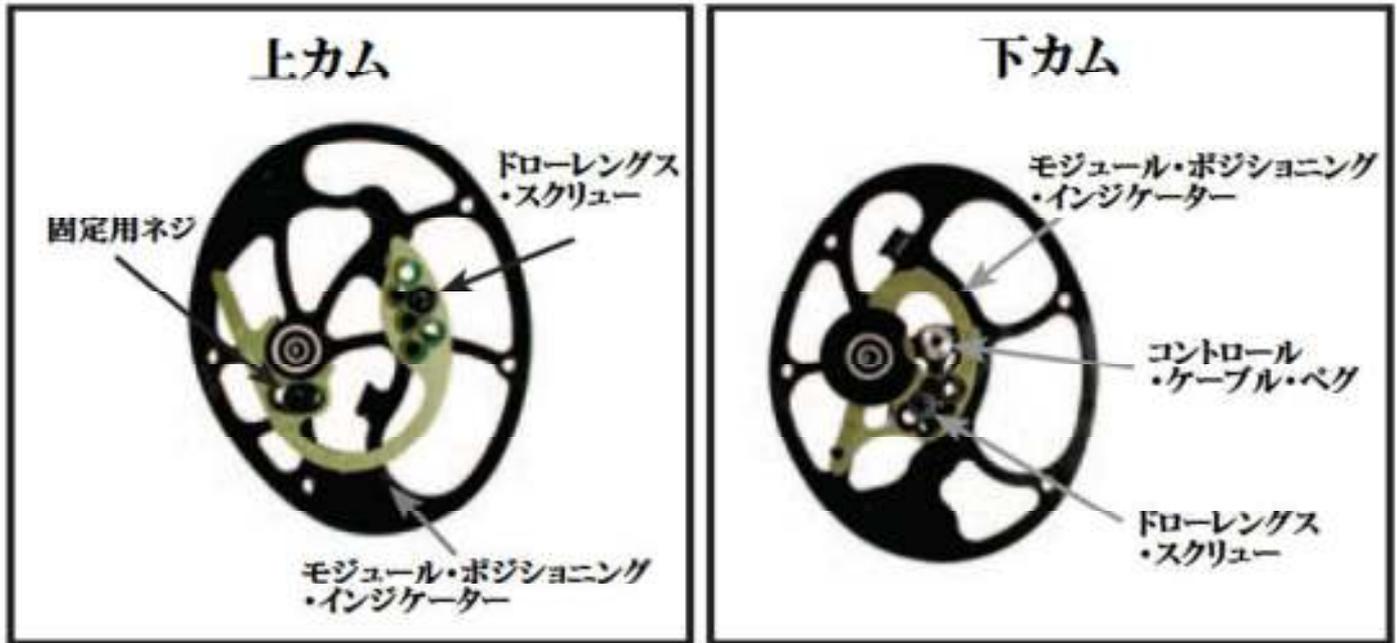
ケーブルスライドの設置



ケーブルが互いに擦れるのを防ぐために、HOYT は特別にデザインされた、オフセットケーブルスロットのあるケーブルスライドを使っています。正しくHOYT の弓に設置するためには、まずガイドをケーブルガードバーに取り付けます。次に、コントロールケーブルを前の短いスロットに通します。最後にバスケーブルを後ろの長いスロットに通します。

ドロールングス調整

GTX、Accuwheel、Ignite、RuckusカムなどRotating inner-cam モジュールを装備している HOYT の弓のドロールングスを調節するためには、以下の説明に従ってください。



上カム：Rotating inner-cam モジュールを装備している HOYT の弓のドロールングスを調節するためには、標準のレンチを使いドロールングス・スクリューを締めたり、緩めたりしてください。インナーカムモジュールを (+) の方向に回転させると、ドロールングスが長くなります。インナーカムモジュールを (-) の方向に回転させると、ドロールングスが短くなります。それぞれの文字は、前の文字と比べて 1/2インチの差があります。インナーカムモジュールが正しい位置にきたら、ドロールングス・スクリューを再び取り付け、最後に固定用ネジを締めてください。

Note：Ignite、Accuwheel、Ruckusカムでは上カムのドロールングス調整と同じ作業を、下のホイールでもおこないます。

下カム：ドロールングス・スクリューを取り外し、インナーカムモジュールを上カムのインナーカムモジュールと同じ文字になるように調整します。このようにしないと弓が正しく機能しません。インナーカムモジュールの固定に青のロックタイト（Blue Lock-Tite）の使用をお勧めします。

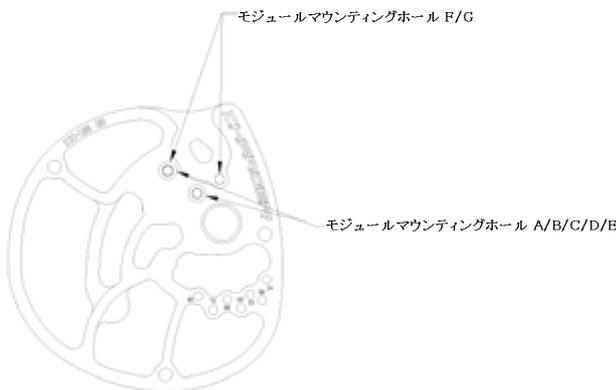
WARNING：カムモジュールやドローストップペグが欠けた状態、または違うモデルのインナーカムモジュールを使用した状態で弓を引かないで下さい。深刻なけがや弓のダメージにつながります。ボウプレスを使用せずにステンレスのコントロール・ケーブル・ペグを外すのは絶対にやめて下さい。

Exchangeable モジュール調整

以下の説明に従って、Exchangeable モジュール（Z5 Turbo、RKT、Chargerカム）を装備している HOYT の弓のドロールングスを調整してください。この調整ではボウプレスを使う必要がありません。必要なドロールングスを決定できたら、単純に 7/64"レンチを使ってモジュールスクリュー

を取り外してください。モジュールを固定するためのネジは上カムに三つ、下カムに2つあります。ねじを取り外したら、モジュールをカムから外してください。

チャージャーカム

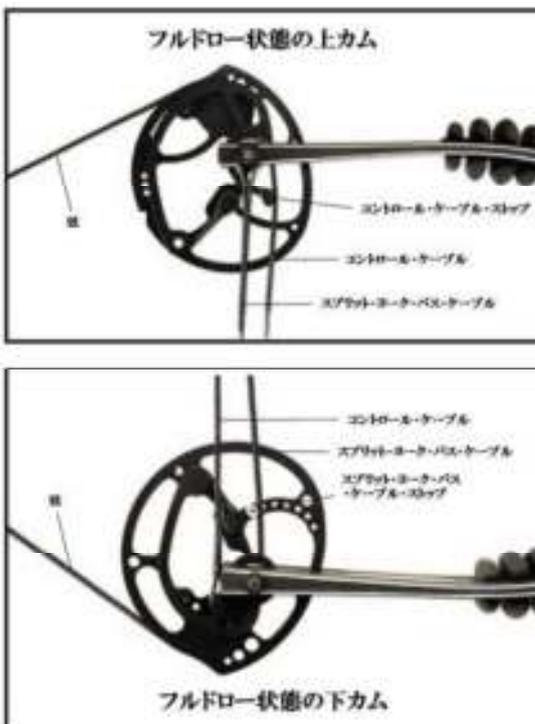


必要なドロレングスに対応したモジュールに交換してください(モジュールスクリューを締めすぎないでください)。モジュールスクリューをBlue Lock-Titeを使用して固定することをおすすめします。ドロレングスが設置されたら、下カムにあるドロストップを調節します。ドロストップを 1/16 インチレンチで外し、カムモジュールに書いてある文字に対応するようにねじ穴に再設定します。たとえば、RK-2A-BRカムモジュールはドロストップペグのAの位置を使います。詳細のビデオは下記まで：
<http://www.youtube.com/watch?v=T-51Z-z98Zc>

ドロレングスモジュールは、HOYT 代理店で様々なサイズがお求めになれます。

弓の設定を工場出荷状態に戻す

工場から出荷した初期状態の弓のセッティング（カムタイミング、ドロレングス、ドロウェイト、ブレスハイト、アクセル間など）に戻すためには、まず弦とケーブルの長さを測り、そのあとに元の長さに戻るように、弦のねじれを増したり、減らしたりしてください。ストリング・ケーブルの長さは100ポンド以下の負荷がかかっている状態で計測します。弦とケーブルの長さが戻れば、あとはコントロールケーブルかバスケーブルのどちらかをねじることで、上下のドロストップを同期させることができます。



カムタイミングのシンクロ

HOYTのCAM&1/2パフォーマンスシステムはあまりメンテナンスを必要としません。ストリングとコントロールケーブル、バスケーブルが正しい長さの場合、カムタイミングはほとんどメンテナンスを必要としません。ケーブルストップによってケーブルが止められても、上カムと下カムの両方が同時に動くように、コントロールケーブルがコントロールしています。カムがシンクロする地点は幅広くあります。HOYT のエンジニアやプロシューターは、カムタイミングの差は、矢のグルーピングにあまり影響を与えないとしています。もし、ストリングやケーブルの長さのせいでカムタイミングやポジショニングが合っていないと感じたら、下記の方法を参照してください。

まずは、ストリングの長さが推奨値に合うように、ねじりを加えたり、減らしたりしてください。次に、調節したストリングを取り付けます。

弓を引いたときに、上カムのコントロールケーブルストップが、下カムのヨークバスケーブルストップよりも先に触れる場合は、コントロールケーブルをねじって短くしてください。下カムのヨークバスケーブルストップが、上カムのコントロールケーブルストップよりも先に触れる場合は、ヨークバスケーブルをねじって短くしてください。

注意：HOYT はストリングの長さを ATA 規格に従って測っています。

GTX、Spiral Proカムのレットオフ調整

GTX カムには 65%と 75%モジュールがあります。レットオフの調整はHOYTか、プロショップで行ってください。これらカムでレットオフを調整するときは、ボウプレスを使ってカムとストリングを弛める必要があります。

上カム：上のカムモジュールを外し、必要なレットオフに交換します。

下カム：ストリングとケーブルを取り外します。次に、コントロールケーブルペグとモジュールスクリューを外し、モジュールを取り外します。必要なレットオフモジュールに交換し、コントロールケーブルペグとモジュールスクリューを再び設置します。コントロールケーブルペグの固定には Blue Loctiteを使用しましょう。このとき、モジュール番号とカム番号が合うようにしてください。たとえば、GTX #5カムは、GX5番モジュールです。モジュールが互いに同じ文字になるように注意してください。たとえば、トップモジュールが「E」のポジションにある場合は、ボトムモジュールも「E」の位置になければなりません。

WARNING：カムモジュール、セットスクリューが合っていない状態で弓を引かないでください。

PODIUM X ELITEグリップシステム

PodiumX Eliteシリーズではモジュラーグリップシステムを採用しています。工場出荷状態では、0のグリップモジュール（18度ニュートラル／トラディショナルアングル）が設置されています。異なる角度のモジュールに変更する際は、7/64"レンチでソケットヘッドキャップスクリューを弛め、モジュールを取り外します。そこに必要なグリップをベッドにセットし、スクリューを15インチポンドで締め直します。過剰に締めすぎてはいけません。

- 0（18度ニュートラル／トラディショナルアングル）
- +2（20度）
- +4（22度）
- +6（24度）

シリアルナンバー

HOYT のコンパウンドボウには 6~7 桁のシリアルナンバーが 4 カ所のうちの1つに刻まれています。上リムの間か、その下のポケット、あるいはアローレストのマウントホールです。もし、レストをすでにハンドルにつけてしまった場合は、シリアルナンバーを知るためには取り外さなければならないかもしれません。HOYTのカーボンハンドルの場合、シリアルナンバーはサイトマウントホールにあります。Charger シリーズでは、グリップの下にあります。見つけるためには、グリップの固定ねじを外し、グリップを取り除く必要があります。Pro-Comp FXシリーズの場合、シリアルナンバーはケーブルガードバーの下にあります。

